

東京女子高等師範學校  
日本幼稚園協會

# 幼 兒 の 教 育

主 幹  
倉 橋 惣 三

十 月 號





# 育教の兒幼輯編會協園稚幼本日

會長 東京女子高等師範學校校長 茨木清次郎

主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋惣三

贊助員 (五十音順)

帝國教育博物館長

東京女子高師教授 岩谷秀雄 乙竹岩雄 東京大學教授 棚橋源太郎

東京帝大醫科講師 太田孝之 東京女子師範學校校長 高島平三郎

東京高師教授 大瀨甚太郎 東京女子高師囑托 土川五郎

慶應大學教授 唐澤光德 帝國教育會理事 野口援太郎

東洋幼稚園長 岸邊福雄 京都帝大教授 乘杉嘉壽

早蕨幼稚園長 久留島武彦 東京女子高師教授 野上俊夫

帝國教育會會長 澤柳政太郎 堀七雄

東京市學務課長 佐々木吉三郎 東京女子高師教授 松村武雄

東京高師附屬小學校主事 佐々木秀一 東京帝大教授 松本亦太郎

東京女子高師教授 下田次郎 奈良女子高師校長 榎山榮次

東京女子高師教授 菅原教造 奈良女高師附屬幼稚園主事 三田谷啓

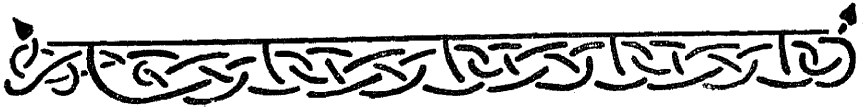
東京市視學長 藤井利譽 東京高等學校長 湯原元一

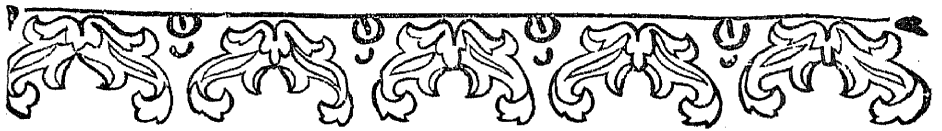
東京女子高師講師 藤五代策 東京帝大教授 吉田熊次

大阪市教育部長 福士末之助 日本女子大學學監 安井哲子

支博 谷本富

支博 安井哲子





第六號

幼 兒 教 育

第二十四卷

目 次



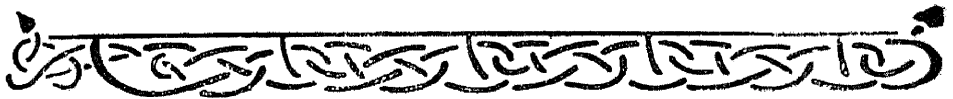
創造性と鑑賞性(二).....倉橋惣三.....二一〇

二人の父.....石田 毅.....二二一

泰西名家幼稚園觀.....記 者.....二二三

動作遊戯(お池の緋鯉).....土川 五郎.....二三四

南支那地方視察の一節.....大阪市西區幼稚園 視察團記者.....二三六



萬國幼稚園協會案  
倉橋惣三先生序

日本幼稚園協會譯

最近刊

# 幼稚園保育要目

菊判洋裝美本・正價金壹圓參拾錢

此の幼稚園保育要目は四歳より六歳までの幼児の必要に應じて選擇し、その内容は兒童の共通經驗を代表した保育教科書であります。一、自然物及自然現象から説き起し、家庭、社會生活より製作、言語、文學、遊戯、音樂に至るまで保育上必要な條件は悉く網羅せる良書。

發行所

東京上野公園  
寛永寺坂下

教文書院

電話下谷 三〇四七番  
振替東京四六一一一番

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會

# 幼 兒 教 育

主 幹

倉 橋 惣 三



第 六 號      1924      第 二 十 四 卷

## 創造性と鑑賞性（續）

倉 橋 惣 三

人格活動の態度として我々に起つて來る問題の中に、鑑賞的態度と云ふものが又大きなものであります。近來は何方かと云へば創造性の教育の方には兎に角非常に注意が向つて居るのであります。而して是が所謂近代教育の一つの大きな傾向、又努力となつて居ります。が人格活動の態度に關する觀念の教育的考慮と云ふ點から云へば、鑑賞的態度に關する方の教育が忘れられては居ないかと云ふことを思ふのであります。是は必ずしも我國の現狀に就て言ふばかりでなく、一般に其趣があるとも云へるか知れませぬ、鑑賞と云ふことに就て美學者は種々に論じます。之を一々漁つて行きますれば非常に複雑な問題になります。何故我々が鑑賞出來るか、又或は主觀主義、或は客觀主義、或はそれが結付いて來ます所の共觀の説、どんな所に鑑賞的作用が出來るかと云ふことの説明は可成り難かしい、面倒なことでもあります。併し私の茲に問題としたいのは、其鑑賞と云ふことが働く方の見方ではなく、人格活動の態度としての鑑賞の特殊性と云ふものを見る事であります。同じく人格活動の態度でありますからして、獨創性、或は創造性と並べて比較的に見る方が便利であります。創造は、私の今申上げた所に依れば個性に依つて個性が個性を産み出す所のものである、言換へれば何處までも其基礎の個性と云ふものが始めにして終なるものである、個性あるが故に創造が出來、出來て居るものが個性的色彩を持つて居る、始めから終りまで、個性を以て始まり個性を以て終る所のものであります。個性と云ふことは人間の差別觀に屬するものであり、創造は其中に倫理が活きる所以であります。創造と云ふ人格活動をして居ります時にのみ我が完全に其

所に生きる、他のものに模倣するのでなく、我と云ふものが、我と云ふものに於て徹底的に生きて行くのである。社會生活、或は普通の道德生活の意味に於けるやうな自己主義、主觀主義ではありませぬ、けれども、矢張り一種の個性と云ふ現れに於ての自己本位のものであります。

鑑賞と云ふ人格活動の態度は是と反對するものでありまして、鑑賞は必ず鑑賞の對象を持つて居るのであります、對象と自分とが結付くのである、鑑賞の場合に於ては自分が對象の中に這入り込むのであるか、向ふを自分の中に這入り込ませるのであるか、それは主觀主義を執るか、客觀主義を執るか、いづれにしても人格活動の態度としては對象の中に自分が這入り込んで居る其時は、既に自分と云ふものは滅して仕舞つて居るのであります。況んや此一箇の對象に對してはAもBもCも之を鑑賞する、Aも對象の中に這入る、Bも對象の中に這入る、Cも對象の中に這入つて、鑑賞して居る時に於てはABC悉く自己の差別と云ふものがなくなつて、仕舞ふ、鑑賞對象の中に同化せられた一種の平等的のものになつて仕舞ひます。

創造は何處までもオリジナリティー、個性を以て創造的に進んで行くのに對して、鑑賞は常に自己を没却する所の生活に這つて行くのであります。美學者は茲の所を説明して、心理學的の言葉を以て言ふならば、鑑賞の態度と云ふものは自己としての意志活動性を失つて居るものと云ふことを言つて居ります、此點は恰も模倣と云ふこと、外觀に於て似て居る所があります、皆が或る物を模倣して、自己を無くなして、手本にのみ皆が從つて行く生活をして居る時には、Aも或る物を手本とし、Bも同じものを手本とし、Cも同じ物を手本として居る時には、差別性がなくなつて來る、併しながら所謂模倣と云ふ言葉を以て現して居る人格活動の態度に於ては、矢張り自分の方が本體になつて向ふの手本を自分の中に採り用ひて居る所の態度であります。採り用ふることも忘れて其手本の中に這入つて仕舞つた時には、模倣の状態から鑑賞の状態に變つて來る、外形は似て居りませうが、人格活動の態度としては丸切り違つたものになるのであります。個



性を本位として産み出して行く所の創造生活と云ふものは、之を藝術的に見れば、其作品を本位にして見るからして、自  
から見方が違つて参りますけれども、人格的に見るならば、其差別性が主になりまして、道徳的、社會的のものではありま  
すまいが、矢張りを己を主とする所の生活になる、人格活動の態度は一方で行つたことは、それだけで切離せるもので、  
他の人にも移つて行き、所謂人格活動全體と云ふもの、中にそれが融けて、自から創造と云ふ生活に於ては社會的、道徳  
的、意味に於ける主義ではないけれども、人格活動の中に融け合つて、他に染み移つて來る點に於ては餘程主義的な色々  
の生活の色彩を帯びて居ります、茲に或は傲慢、或は自分を誇る、或は自分を自分で味ふと云ふやうな  
何處までも自分と云ふものがこびり附いて居る人格活動の傾向を帯びて來ます、是は實際に藝術家、或は發明家などのキ  
ヤラクターに於て常に見る所でありませう。勿論例外も澤山にあります、例外ではなく、或は其方が本當かも知れませぬ  
が、仕事に於ては獨特であつて、其人の人格活動の調子は少しも主義的でない人も澤山にあります。あの所謂普通人肌  
の、所謂創造性の非常に勝つて居る人の中に於て、所謂意地張りで、勝氣で、自分本位の、傲慢で、なか／＼下らない、  
なか／＼己を高うすると云ふやうな、さう云ふ趣と云ふものは當然ある、少くも其己を高うし、己を中心とする生活の反  
對であります所の謙遜、或は物を尊崇するデボーション……必ずしも社會的、道徳的生活の意味で言つて居るのではあり  
ませぬか、人格活動の其本質としてのさう云ふ態度と云ふものは餘程少くなつて來ます。之に對して鑑賞と云ふ態度は、  
自分を伺ふの中に始終入れて生活して居りますからして、鑑賞して居る其時は何もそれ自身社會的、道徳的意味に於ける  
意義を持つたものでありませぬけれども、自分を物に入れて居る所の、見上げてゐる、見詰めて居る、己を忘れて居る、  
自失してゐると云ふやうな態度と云ふものは自から性格全體の方に染込んで來て、ハンブル、デボーションと云つたやう  
な生活態度と云ふものを造る方の傾を持つて居ります。是が直ぐに倫理的に取扱はれべきやうな道徳的行爲となつてどう  
現れるかと云ふやうなことは暫く申さないとしまして、其人の行爲の、態度の中に於ては絶えず己を主にして、己を誇り

己を發揮すると云ふやうな心持の中に、他に或るもの、中に己を入れて、或るものに己を低うして、向ふを仰ぐと云ふやうな心持の生活の態度の中に或る一つの本質となつて貯へられて來ます。人は必ずしも宗教信仰者に直ぐになるか、或は非常に謙遜な人になるか、是れは又複雑な問題でありますが、さう云ふ態度と云ふものが其所に貯へられて來る、我國の——假りに他の國は見ませぬで、——我國の教育として、人格活動の態度に關する教育方面の考慮と云ふものは比較的少くないかと云ふことを思ふのであります、其自分を對照の中に入れて仕舞つて、所謂忘我の鑑賞状態に入らせるには、對象と自分との關係でありますから、其原因となるものは或は對象にあり、或は自分にあり、或は兩方にあると云ふことになることは當然なことでありませう、今まで自分で新しい流派を立てやうと思つて、小さい個性發揮や、小さい創造生活に唯驅られて居つたものが、驚くべき偉い名工に接しますと、そこに謙虛な心持になつて其中に引入れられて仕舞ふと云ふのは、其名工の方が偉いからであります、自分は自分で自分の個性から産み出すと云ふ、自分を主にした心ばかりが起りますけれども、それが起らなくなつて、其人をして鑑賞の生活に入らしめて來ると云ふことは、それが非常に偉い對象であるからである、自分には自分の考がある、どの説も服するに足りないかと云ふやうな心持を持つて居る者も、若し非常に偉い著述家にでも會ひましたりすると、そこに全然忘我的に、鑑賞的に其中に這入つて仕舞ふと云ふものは、其對象が偉いからであります、併し其對象が偉いと云ふことは、其對象と關係した意味に於ては自分の方を低く見て居ると云ふことに當然なります。詰り偉大なるもの、前には低くめられると云ふ経験をそこで生ずるのであります。一つ一つの經驗が心性の上に於て或る一つの痕跡を印するものとして、さう云ふことを繰返して居る中に自から鑑賞するに足るものがあるならば、——鑑賞することが出来る、それは言ふまでもなく一時的のことではなく、——蓄積に依て其心性、人格、性情の上に於て或る痕跡を止め、容易に鑑賞し得るやうな、態度になり得るものとすれば、鑑賞は自分の方に鑑賞し得る態度と云ふものが考へられる、之を鑑賞性と申します。或る人はそんなものは下らないものであると思ひませう、それが下

らないものであるか、下らないものでないかは、是は大きな人生の考へ方に關係して來ることでありますからして、此處では其問題には觸れない方が便利だと思ひますが、兎に角非常に偉いものに打突かりますと我ながら鑑賞の態度となる、我々は繪を見て一つも鑑賞の態度になつたことはない、院展の繪を見て一つも鑑賞の態度になつたことはないと言ふ畫家がある、けれども和蘭に行きましてレンブラントの名畫の前に立つた時には小さい自分を主にした、或は批判し、或は拒絶して居つた其態度も、あのレンブラントの大きな名畫の前には己を失ふて鑑賞の態度になる、或はどんな音樂を聞いても一度も自分が鑑賞の態度にならない、又小さい音樂の前には一度も自分は鑑賞の態度になつたことはないけれどもあの大きなワグネルのタンホイゼルの大音樂を聞いては、全く己の批判性を棄て、仕舞つて、さうして鑑賞の態度になると云ふことは、是は否定することの出来ない事實であります。

藝術と云ふものに對してさう云ふ經驗がなければ景色に對しても宜いのであります、何でもないと批評して少しも鑑賞する態度に出でない人でも流石にあの花の吉野山に遊びに行つて、其景色を見ては呆然として言葉も出ないと云ふやうなことはあることでありますし又さう云ふことがあつたからと云つて、決して自分として恥かしいことでも何でもないと云ふことが云へると思ひます、其經驗を繰返すことに依つて今までは何を見ても鑑賞すると云ふやうな方へ向かなかつたキヤラクターが鑑賞するに足るものがあれば潔く謙虚に跪いて鑑賞すると云ふ様なさう云ふキヤラクターに變つて行くと云ふことも是は考へられると思ひます。勿論さうなりましても下らぬもの、前に鑑賞するのではない、鑑賞するに足るものでなければ鑑賞しない位の權威は捨てないのでありますけれども、併し鑑賞すると云ふ習慣が少しも養はれて居なかつた其キヤラクターを、鑑賞するに足るものがあつたならば容易に鑑賞し得るやうな鑑賞性を所有するものに變へると云ふことは是は有り得ることだと思ひます。鑑賞性が養はれましたならば、鑑賞するに足るものに對しては鑑賞性の養はれなかつた前の或は鑑賞性をてんで養はれて居ない人に比較すると容易に鑑賞する、それがもう一步進んで來ますと云ふと鑑

賞するに足るものを求むる心と云ふものに變つて來ます。個性にコロスボンドしたる創造の生活を生み出さうとするものも、生れ出したいと云ふ所まで行つて初めて本當の創造性となるとするならば、鑑賞性も亦、鑑賞するものがあつたら鑑賞し得ると云ふ受身の態度から、鑑賞したいと云ふ態度になる、之を假に其問題の最も人間的に多少特殊な著しい鑑賞となつて居ります宗教と云ふやうなことに就て云つて見るとすると、宗教と云ふものは勿論模倣に依つて出來るものではありませぬ、——もう少し大きなものでなければならぬ、随分中には模倣と云ふ所を脱出しない宗教生活もありますが、殊に宗教と云ふものが社會現象として行はれて居ると云ふ意味の宗教生活に於ては非常に多く模倣性が傳つて居ると云ふことは是認されるが、眞實の信仰生活と云ふものはさう云ふものでないと云ふことは認められます。——けれども、宗教に對する自己抑止でありまして、跪いて崇める、緘つて高めて行く所の其生活、是は對象本位のものでありますけれどもなかくそれが出來ない、差別觀の強い人にはそれがなかく出來ない、併しながら降參しなければならぬ大宗教に觸れた場合に於ては其中に入れられる、併し其宗教に這入つたことは其偉い對象の力に依つて這入つたのでありますけれども、又一面に於ては自己を引下げることによつてそこに行き得る宗教的訓練を受けて居ります子供、それは容易に拜むべきものに向つては拜み得る心を、養はれて居る子供、其は宗教性のある子供と云ひませう、何も直に判然した信仰對象を確立するまでに行かなくつても拜み得るものならば拜むやうな心、容易に拜める心持と云ふやうなものが出來て居れば、宗教性があると云へます。

併しもう一步進んで云ふと拜めるものがあつたならば拜みたいと云ふ心持が人間に出來て來る、何かを拜みたい。西行の山家集などを繙いて見る時などにはさう云ふ氣持がする、西行は何を信じて居つたか、何を拜んだか、西行は拜みたい心を以て山や野を歩いて居つたと云ふことが感ぜられる、だから西行には色々のものが拜めたのであります。斯う云ふ風にはは鑑賞的生活の一つの例として宗教を持つて來たのであります、持象を本位とする生活、さう云ふ風なものは謂ら

ぬと云つて仕舞へば其人の人生觀次第でどうでも宜いことであります、殊に生存競争を本位にする所の生活などに於ては斯う云ふことは云へないやうなものでありますけれども、人間性と云ふものを人格活動の態度と云ふことから色々考へて行けばさう云ふ方面も亦大いに考へて行かなければならぬと思ひます、實際問題は此處では出来るだけ避けると云ふより其暇がないのでありますが、我が國の小學教育或は幼稚園に於て此方面は非常に足りないやうに思ふのであります。近世の外國の教育でも亦非常に其點が缺けて居りまして、所謂中世紀風の鑑賞生活を主にした教育に比較すれば非常に其點が缺けて居ります、けれども流石に矢張大きな藝術を持つ大、きな宗教を持ち、大きな音楽を持ちて居る國、又先生達が子供の時から鑑賞性を養はれて居る先生に依つて教育されて居る其教育に於ては、教育論として或は實際やつて居る現在の状態に於てはそつちを餘り意識して届りませぬけれども、可なり其方が働いて居ることを見るのであります。

扱て、鑑賞と云ふものは自分に向ふの中に入れて仕舞つて對象の中に自分を小さくする生活であります、己を小さくする、己を下げる、己を空しうすると云ふことは、對象たるものが自分より偉大なものである限りに於て、或は偉大さの程度に於て、小さくすると云ふことは、自分を下げると云ふことは、高まることで、失ふことは持つことである所の向上の生活と云ふものがそこに與へられるのであります。創造生活は此小さい自分の個性と云ふものを本體にして其個性から自分の個性に相應するものを生み出さうとするので、幸にして人類の中に於て自分の個性が最も偉大なものであつたならば人に貢獻する所もありませう、併し自分に取つてそれだけである、どう骨を折つた所でどうせ自分が拂へるものは大抵定つたものであるけれども、其高い對象の中に自分を入れてさうして自分が高くなる、此處に人間向上の法則と云ふものがあるのであります、生存競争を……現在の生活を、此現在の自己と云ふものを本體にして考へる生活に於ては、創造だけで宜しいと申上げました、併し現在の自分と云ふものを高めて行くと云ふことを、全體の人類を高めて行くと云ふことを、其エレベーションと云ふことを育教の大きな仕事と考へて行く時には、鑑賞の教育をしなければならぬし、鑑賞すべ

きものがあつたならば鑑賞し得るやうな鑑賞性を養はなければならぬし、更に進んでは、どつかに高く己をエレベートして呉れるものを求める其鑑賞性を養はなければなりません。それが缺けて居つたならば、人格活動の態度としての教育は一方に偏して居ると云ふことを思ふのであります、鑑賞と云ふことは鑑賞するに價する對象に對する態度であると云ふことも出來ます、併しながら既に鑑賞せんとする心を持つまでに自分の方に鑑賞性が出來たとするならば、鑑賞し得ないものはなくなつて來る。

私は或る時妙な經驗をした事があります。私は創造主義或は自發主義と云ふやうな自動本位の問題に就て考へる辭があるので、自然圖畫教育と云ふやうなことに付きましても自由畫と云ふものを非常に尊重する考が私の中にある、寫生と云ふやうなことは、物を寫す或る圖畫のテリニツクを教へるに過ぎないと云ふやうな考が、非常に幼稚な考でありませうが私のどこかにありました。所が或る時ちよつとしたことで縁側で——信州小諸に於ける經驗でありましたが、——木の葉を見て居りました、其木の葉の中の實に一つくと云ふものが皆違つて居ると云ふことを極めて平凡なことではありますが、氣が付ききました、違つて居ると云ふことは誰でも知つて居ることではありますが、違つてゐるものは違つて居るものとして取扱はなくちやならぬと云ふ考がそこに起つて來た、木の葉を畫くと云ふことは、一つくくの木の葉を其儘に寫すと云ふことの中に木の葉を意識して行くと云ふ、其非常に大きな働があると云ふことを考へました、自分の小さい個性から生出した木の葉を畫くのぢやない、虫食つて居ても、それをそれとして見て行く所の、態度之が詰り有らゆるものに向つた鑑賞の態度として、私の云はうとする所であります。此意味に於て考へた時に寫生と云ふことが非常に意義を持つて來ると思ひました。此間或る美學者と、こんなことを考へて居る時でありますから、自然話が其方に向つて、ルーベンスが其繪を畫く時に御覽になつて居ると思ひますが、自分の妻君をモデルとして畫いて居り、或はロダンが自分の作物を作る時に其モデルと云ふものに非常な執着な關係を以て畫いた。近世の職業モデルと云ふものを、一時間幾らで金を出して前の時

間と後の時間と變つて仕舞ふやうなそんなモデルの使ひ方と云ふものは昔の藝術家はしなかつたものである、と云ふことを其美學者から聞きました。其二つのモデルの使ひ方の違ひ方と云ふものは人間と云ふものを自分の頭の中でクリエートして居る材料としてデッサンして居るならば、所謂プロフェクショナルモデルで宜いのであります、が併し人の一人々々を別なものであつて、其人を其人として、人間の一部分ではないと云ふやうな見方で其人を見て行く時に於ては、時間毎に變つて行くモデルで繪の畫ける筈がありません。色々のものを見る時に只それを材料として取つて來て、後は自分の結合で拵へて行かうと云ふ態度であれば必ずしも鑑賞と云ふことは要らないのであります、併しながら其ものを其ものとして尊重すると云ふやうな取扱ひをして行かうとする時、しなければならぬやうな氣が起つた時、そこに鑑賞と云ふものが起つて來るのであります。

今日藝術教育論に於て多くは創造に關する方面が説かれて居つて、鑑賞に關する方面は甚だ説かれて居りませぬが、假に鑑賞藝術の教育を此處にするとします、或は童語を聞かせよ、或は芝居を見せよ、ちよいと試みられて居るのであります、其時に若し子供に其舞臺に立つて歌ひました音楽者の歌を聞き只音楽を聞いた喜、只歌を聞いた面白味だけと云ふことを味はせる程度に止つたならば、それさへ出來ない者よりは非常に鑑賞性のある人間と云ふことは出來ませうけれども、もう一つ進んで本當の鑑賞と云ふものは、音楽の中の一つとして見ないで、それとして見て行く、今歌つて居るそれと云ふ、何處までも絶対にそれと云ふ所に重きを置いて見て行くのであります、そこまで鑑賞し得る態度を養つた時に本當の賞賞的教育と云ふものが出來る、鑑賞は對象の中に自分を入れると云ひましたが、多くの對象の中の一つへ入れたのではなく、其對象に限つて自分を入れたのである、今此對象を鑑賞して居る、其世界の中には他の何物もなくなつて仕舞ふ、只それだけがある世界。それが創造活動に於ては色々の材料を取つて來て、之を取らうかあれを取らうかと取つて來たものも都合に依つては捨て、それを只自己がコンピネーションして拵へる、それとは丸切り違つて對象それをそれ自身

絶對なものとして見て行く態度であります。

前に鑑賞の態度は意思活動と云ふものをなくして来る特性を持つて居ると云ふことを云ひましたが、理性の活動と云ふものをなくなして来る、鑑賞の最も嫌ふものは批判であります、創造生活の材料として此宇宙から色々のものを取つて来た時に於ては、批判が最も必要なものであります、鑑賞生活に於て、あるものに自己を入れて行く時に最も邪魔なものは批判であります、若し我々が批判だけの生活を以て暮して居つたならば常に何物をもそれ自身として自分の鑑賞の態度にすることは出来ません。下らない例でありますが、美術館に行きまして繪を見て居る、此繪は先刻見た繪より巧いだらうか拙いだらうか、此人の畫いた前の繪よりも、此繪はどうなつて居るであらうか、さう云ふ風な批判即ち比較の感が少しでも残つて居りましたならば本當にそれを鑑賞することは出来ない、鑑賞する時の態度はあの百も二百も掲げてある美術館の中に自分が前に立つて居る其唯一つそれ自身に自分を没入するのであります。今日の理性本位の教育に於きましては斯う云ふことは甚だ嫌はれ易いやうなことであります、出来ただけ鋭い理性を養つて出来るだけ鋭い批判性を養つて所謂比較批判に依つて辛うじて正しきものを見出して行けと云ふのが今日の我々が子供に興へて居る所であります。併しながら斯の如くして消極的には誤らざる程度に辛うじて行き得るか知れませぬが、その批判比較に依つて取出した之と云ふところに本當に自分が這入り込んで行く生活と云ふものは只比較批判的な教育では出来ない、それ自身として矢張這入つて行く絶對觀のある。教育の人でなければ出来ません。個人性格を本當に陶冶すればそこから社會的性格が出来ると考へるところとは大いなる誤りで、社會性格は社會性格として獨立に訓練されなければ發達しないものであると云ふことを申した事がありますが、矢張同様の趣意に依つて、批判比較の理性教育に依つて正しきものを見出し得るの力を子供に興へれば、自ら正しきものに本當に信賴する力が出来ると考へるならばそれは間違である、絶對なものに這入り込む力、鑑賞の力、それ自身として自己をそれに入れて来る力、それは獨立養成するに非ざれば得られないものだと言ふことが云へませう、若し



さう云ふことが云へるとするならば今日我々のして居る教育と云ふものは随分其點に於て力弱いものでありはしないかと云ふことも思ふのであります。

鑑賞と云ふ言葉は藝術に多く使はれる言葉でありますが、併し鑑賞性と云ふことは人生全體に持つて來なければならぬ持つて來ることが出來ると思ひます。友達と仲良くせよと云ふ事は、多くの自分の傍に集る所の者に鋭き批判批評を加へて之を友達とする足るもならば、友達とするに云ふことではないのであります。言換へれば多くの人の中の一つとして其人を見ないで其人として其人だけを見得る所の鑑賞の態度に這入り得ると云ふことである、此のことは實に理性批判比較の性能が非當に、——所謂今日の教育を受けた人に、——發達して居りますから、夫となり妻となつても鑑賞の態度を以て絶對に没入の出來ない人がある、隣りの妻君と比較しながらじろ／＼見て行く、他の人と比較して夫の收入を考へて居る、況んや日常生活に於て有ゆるものに就てそれ自身としてそれを自分に結び付けて其中に這入り込んで行く其生活と云ふことは甚だ缺けて居るのぢやないかと云ふやうな氣がするのであります。餘計なことではありますが、平常思つて居りますことですが、私も教育者の一人として申して見れば教育者と云ふものは生徒に對して可成り鑑賞的な態度を持たないのであります、比較批判と云ふことだけを以て生徒を見て居る太郎を見る時に太郎それ自身を見ないのであります、次郎よりも馬鹿だとか、三郎よりも利口だとか、抽象的な標準事實と云ふものを元にして色々見て居るのであります、或は又進歩と云ふことを考へ、發達と云ふことを考へるの結果昨日の太郎に比較して今日の太郎を見る、未來の太郎に比較して今日の太郎を見る、今そこに居る太郎その者を其人として見て行くと云ふやうなことに就ては、缺けて居るやうです現在の所ではさう云ふ風な趣が非常に多い、其眼で見られて居る子供にどう云ふ性情が附くかと云ふことも又考へられることでもあります。(完)

# 二人の父

名古屋市松若幼稚園 石田 馥

こゝに記載いたしましたものは我幼稚園に登園しつゝある男児の父兄の教育主義でございます。して此父兄等は、兄弟関係でありまして兩家何れも佛法信仰あつく、一案圓滿にまた格別の、親交を結んで居ります。

然るに父として子に對する教育法が、極端なる反對説をもつて居ります爲に、時々意見を戦はし、激烈なる議論をいたすそうでございます。この父兄達は、時々園に参りまして、其主唱を誇張し、或は各目に或は同時に、私に向つていろ／＼の質問をなし、時のうつるを知らぬ有様で御在ます。私は、常にその中庸説をもつて、其場其場の解決を考へて居ます。今夏大坂に於て、開催されました講習會に、出席致しまして、計らずも、倉橋先生に、御目にかゝる光榮を得ましたから、日頃困つておりました此問題を御耳に入れ、何れがよるしいかを伺ひましたら、先生は、兩者の説が、最も意義あつて有効だと思はれるから、誌上に記載すべしと仰せ頂いたので、厚かましいとは思ひましたが、この如く駄文を

省みず、ありのまゝに記述いたしました。  
尚ほこの父兄達の家庭、職業、その他の有様を御参考までに記しておきませう。

關係及名教育程度 幼兒名 教育主義 職業

弟 匿名中等教育以上 アキヲ長男 早教育 醬油薪炭問屋

兄 匿名中等教育以上 ケン長男 自然尊重 帶地半袴商

大正十三年三月

保姆

あなたのお子さんは、何でもよく知つてお出になり、且つよくわかつておいでですね、何かお宅で教へておいでになるでせうか。

客

ハイ、私は多少主義とでも申すものをもつて教へております、凡て物を造るには、いろ／＼な方面に心を注がねばならないことですが、最も大切な事はその基に心を用ゐると

云ふことが肝要でありませう。假に家を建てるにしても、基礎工事が大切であり、一つの機械を造るにしても、その一つ一つの材料に注意することや、女子が裁縫をするにしても運針練習が最も必要 であると云ふことは、疑ひのないことで完成に達する遂行として、ごく大切なことであります。況して、萬物中最高の人間であつて家を營み、社會をなし國家を造る上に、人間として大なる訓練を要する事でありませう。

たゞ、ほんやり、大きくなつてさへ行けば人には成ると云ふ様な、簡単な考では居られないのです、勿論寝かせて、着せて、食べさせて、學校や幼稚園へお任ししておけば、人にはなるでせう。然し、教育といふことはあらゆる環境の刺激から、出来るものでありますまいか、黙つて子供の成行を眺めてゆくといふことも、自然を尊む上に大切なことでありませうが、あの火を熱いとも、水を冷たいとも、わからない子供を教へずにはゐられないと思ひます。

保母

大變結構な御意見から起つた教育法ですね、して環境に對

する御意見も承りたいものですな。

客

私は常に申します、幼児をとり巻く凡ての環境が、語らざる教師であらうと思ひます。

即ち、家庭、社會、幼稚園などのあらゆる見聞は、何物かを教へて呉れます。

私方は職業上多くの荒男をおいてあります、彼等は労働の餘暇にはあられもない言葉遣ひで、一向選擇しない事柄を無雜作に喋舌るものでありますが、斯様な群へは只の一度も交へたことがありませぬ。

環境を整理するといふことは、教育上最も必要なことであらうと思ひます。

保母

それは御尤もな事です、私達園に於てもこの環境といふことは充分注意して居ります、して只今お話になつた教へると仰せられるのは、如何なることでありますか。

客

元來私共の子供は何にでも、興味をもつて質問しました、

三歳位からでした繪を見ても、玩具をみても、之なに、あれ何、といふ風に非常に興味をもちました。

私は、子供だからとか、うるさいとか、大人と心理が違ふからとか、といふ考から誤魔化しを教へるといふことは何としても、出来ないのであります、少なくとも、正確に知識を授けたいと思ひ、つとめて、平易に教へました。例へば、

いつの頃にか覚えませぬが、

「お父さん、お煎餅は何故にしめるのか」と尋ねました。私は

前に一度いつて上げたことがありますね、川や海の水、や鹽の水が、お日様のあたくかいおひかりに、づん／＼天の方へ上つてゆきます。これは、火鉢にかけた鐵瓶の口から白いゆけがたつ様に上るので、又洗つたおべべがいつの間にか乾くのも、お日様が水をおとりになつていらつしやるのです、その水がこゝらあたりに一パイ煙のやうにちつてるのを、お煎餅が吸取紙のやうにすふのです。」といつてやりましたら、大變満足したやうに思はれました。

## 二人の父

其他、電車の動くことや、雲氣の火のつくことや、いろいろな化學的のことを、質問しますので返答に困りますが、興味中心に出たものは、出來得るかぎり答へてやつております。

保姆

之も亦結構なことです。ねいは、常識を豊富にして、おやりになるつもりですね。

客

單に常識を豊富にしてやるといふ譯ではありませぬが、小さい子供の中から、出來得る限り見聞を廣めておきたいと思ひ、興味から湧いたものならば、文學も教へてやりませうし、數の觀念も與へてやります、又お話の仕方なども、教へてやります。

保姆

さうすれば一種の早教育ですね

客

さうことごとく申されれば、早教育ですが、興味から起つたものなら、或程度まで教へてやりたいと思ひます。

木村久一先生の早教育は天才を造るといふ御本や、鳩山女史の我子の教育や、エミールなどを拜見しても、私の欲する所を表はしてあります。

保姆

それで判りました、よく知つておいでになるので、餘程教へて有ると思ひました、小さい時から知識を豊富にすることは眞に結構なことではありますが、しかし、私共の考へる幼稚園としては、子供をなるべくありのままに、育て、行くといふことを重んじておりますから、其邊にも多少お心をお用ゐ下さいまして、興味から起らないものは、決して教へて下さらぬ様お願ひしたいものです。

客

御尤もです

して子供に對して先生の御觀察を、伺ひたいです。

保姆

さうですね、大體彰さんは、活動性の強い方であつて、僅かな時間で、あれも、これも、といふ風に、コセくした所があります、又何をさせましても、キチンと出来ます、

又お尋ねすることも、ハツキリお答が出来ます、繪などもよく書きますね、しかし、積木や、粘土細工の様に幾十分續いても興味のつゞく、製作活動の持續性が少ないと申してもいいでせう、ヤヤ、あきつほい、といふ言葉がわかりやすいでせう、又お話などは少々長いものでも熱心に聞いておられます。

客

左様ですか積木や繪本に、随分興味をもちますがね。

何を、いつでも家庭では、自由放題にしてございますから氣儘でございませう。

常にどういふお子さんと遊びますか。

保姆

最も元氣なお子さんとお遊びになりました、いつも大將株を握つて、おられます。

客

家庭に居りましても、近所の大きいお子さんとのみ遊びまして、自分が特權を握つて我儘をしてゐます。苦笑  
いろく、つまらぬことを申しましたが、もう今年一年し

かお世話になられませぬから、充分御注意下さいまして、家庭教育の缺陷を、補つて頂きます様、お願いいたします

四月十日

保姆

彰さんのお父さんは中々眞剣な早教育の、主張者でいらつしやいますね、私あれほどの御思想ではないと思ふてゐましたね、御主義に對する眞面目さに敬服されますね。

客

エイ弟は、眞に早教育の主唱者でありましてね、もう彼れの家に參りますと子供に、それ茶わんはこんな種類があるとか、土びん等も亦澤山の種類がある、これはなに、あれはなにといふ風に、又戸棚の様なものでも、上にあるのは袋棚といひ、下にあるのは地袋といひ、戸障子に必要ある溝でも、上は鴨居、下は鬮と一々直觀教授に忙がしいのです

保姆

而し弟さんは、興味中心から欲求に對しての、満足をお與へになるのではないでせうか。

二人の父

客

ですけど、子供にんだか氣の毒な様な氣がしますわ。

保姆

してあなたは何んな御意見ですか。

客

私もそれについて先生にお伺ひしたいと思ふて居ります。私は弟と絶對反對の主義でございます。子供は子供らしく自然の法則に従つて伸ばしてやりたいです、子供は大人の師匠と申すが如く子供ほど伶俐なものはありませぬ、教へなくてもよく知つて居ります名前などのむづかしいものは大きくなれば自然と判つて來ます、小さい時からヤイ／＼云ふて教へては身體を損ふ許りで、何の役にも立ちませぬ子供時代は、主として身體を健全に進めたいと訓練するのが最も大事なことであります、しかし子供が求めやうとして自發的に出たものは、之を無理に抑へようとは致しません、昨夜も弟と、教育法について大に議論を致しました。

保姆

あなたの御主張も實に尊いものですな、御兄弟揃ひも揃つ

二二五

て熱心な、主義ある教育法でお育になる事は、結構です。實に我々に強い鞭撻を加へて頂くわけですね。

客

そんな立派な主義ではありません、たゞ決して大人から嚙を入れたくない子供の自由に任したいのです。五歳になつても六歳になつても、子供が發動するまで氣永に傍觀するといふ考なのです、例へば、畫を描かうと欲しない中に、描きなさい描きなさいと、鉛筆をもたすのでありません、描かんとして鉛筆を持つた時、始めて畫に對する興味を添へてやります。

ですから、如何なるものに對して興味や意志の起らぬ内は決してすゝめないで打捨て、おきます。

若し弟の如く、それ、雨はどうして降るとか、雪はどうして降るとか汽車や電車の動くわけはかうしてとか、といふわけで、つめこみますと、豊富な知識の收得は出來ませうが、小學校の五六年になつて、それが果して有効に働きますか、却つて害になりはしないかと、又身體にも障りなきやと、うたがふのであります。

私には、今年十四歳になつた長女があります、自分の主義と致しまして、幼稚園へは出しませんでした、尋常五年迄は、ほんとの放任主義の極端性を帯びてゐました、今頃はどの様なことを習つてゐるか位はきいてやりましたも、それをおさらいさせるといふことをしませんでした、學期々々に頂いて來ます通信簿を見て、悪い點が記されてあつても、一言叱つたことありませんでした。

ところが、六年生になつて、中等學校へ入る入學準備をせねばならぬといふ考が、親にも子にも起りました、もう身體が大丈夫だからと思ひ、餘暇には先生に御教示を願ひ、日夜寸暇さへも造らぬ程に、私が教へてやりました。

親も子も一生懸命になつて、それ國語、それ數學、と毎夜十時過ぎまで勉強させました、處が第一志望の女子商業學へ優秀なる成績で入學しました、それからといふものは自習自學で、すん／＼進んで参りまして今年二學年ですが每學期よき成績を頂いて参ります。

保姆

まあ、それは結構でした、御主義から起る努力の結晶で、

ございます且つ、御主義が益々確信された譯ですね

客

アハ、、、大變立派な様ですね。

如何です私共の子供は、よそさんのお子さんとは大變違つておるかと思ひます、元來無口で黙つて暮せば、一日でも二日でも無言で、ゴト／＼獨りで玩具や繪やで何時間でも遊んでおります、そこへ大人が質問でもしますれば答へませんが、大概は黙々として暮してゐます。

然しこちらから命じた事は靜かに眞面目に試みてゐます、又お客でもありまして、長時間談笑してゐても其間父母の側に黙つております。

私は兼て芝居見につれて參りました、其時などは、開演中幾幕あつても大人よりも眞剣な態度で、凝視してゐて家に歸つてから訊いて見ると、大體の筋がすっかり判つて居りました、勿論、舞臺語などは判りさうもないでせうが、表情や何かで意味が判つたらしく思ひました。

保婦

ほんとに無口でゐらつしやいますね、御様子といひ動作と

いひ悪くいふと、大人くさい所があつて、凡て物に對して「つまらない」と云ふ感じをもつておいでになるかと思はれます。

客

へー幼稚園へ伺ひまして二三日すると、「お父さん幼稚園で遊ぶところね」と不思議さうに申しましたから、「何故に」と尋ねましたら、「何か習ふところかと思ふた、何か習ひたいわつまらない」といつたので、之では困ると思ひ、つとめて面白く遊ぶ様にいろ／＼の手段をとりて、毎日御邪魔とは思ひながら、參園して手をとつて遊ばして頂いて居ります。

保婦

まあ、驚きました、そんな爺くさいお子さんは一寸ありませんね、遊ぶのが面白くて／＼、お歸りの時間がくると、もつとおりたいナと、袖にすがる子供さへ多くあるのに、なんだか新ちやんには、「すまない」といふ氣がします。御入園になつてから十日ほどたちますが、一度も笑はれたこともなく、勿論お友達もなく、受持の先生に手を引かれて



右往左往して幼児の遊ぶ様を熟視する位、走つて見せればお義理的に走られる位で、彰さんがどうかして遊んで上げやうと、苦心して、「新ちゃん遊びませう〜」と手を引かれても、たゞ之もお義理的に走つても、見たり何かする位で實にお氣の毒な様です、もう古い男児の遊びは大分計畫を立て、戦争ごとや、汽車ごとをしたり、惡漢退治などと、社會生活の模擬的遊びをいたしてゐますから、その中へ新ちゃんを誘ひに参りましたが、一時は誘はれて、廣い部屋の方へ参れますが活動性に富んでゐる。子供達は靜止性の新ちゃんにいつまでもつきあつてることが出来なくなつて、手を放して打ちやつてゆくの、忽ち新ちゃんは女中さんの許へ走つてゆかれるといふ風です

客

困つたものですね、何うしたらよいでせうか、餘り無干渉であつたことが悪くあつたのでせうか。

學校へ出ましたらさぞ先生に御迷惑をかけることとせう、又自分も難儀することとせう、私は前にお話しました如く自然主義をとつて居りましたから、弟が幼稚園へ御頼した

ら如何かと度々勧めてくれましたけれど、敢へて御厄介にならうとは思ひませなんだが、今年に入つてから又勧めましたのでそれでは試みに出して見ようかとも思ひ、かたがた幼稚園の本質も知りたいと思ひましてね。  
私も商業上種々の用事もあり多忙ですが、子供の教育には何物にも代へられぬので、店員一同に任して御迷惑とは存じますが毎日お邪魔してゐたので、

保婦

幼稚園を御覽になつてどんなお感じなさいましたか。

客

ソレハ私今まで誤つて見解をもつてゐました、幼稚園の仕事といふものは、小學校の小さいものに思ひました、毎日参上して拜見してゐますと、

ほんとに先生方の態度に涙ぐましく思ひます、心から愛して下さる先生、如何にすれば幼児に満足を與へられるかと御苦心せらるゝ先生、千差萬別の幼児の個性に叶つた様におとり扱ひ下さる先生に、感謝せざるを得ないので有ります、私は毎日宅に歸りますと、皆の者にいろ〜の話をし

てやります。此間に識らず知らず大人になつて俄かに修業  
 することの出来ぬ、やさしい心、親しみの心、けだかい心  
 など養はせて頂き、お互の交際も上手になり、圓滿なる心  
 の持主となることが出来ませう。

たえず弟にきかされてゐましたことが漸く、判つて参りま  
 した。もう私でさへ幼稚園へよせて頂いたら歸ることがい

やになります阿々

五月十日午後二時

保姆

御兩家のお子様に対する、表れを一寸書きました、どこま  
 でも正反對ですね、こんなことを調べて見ると教育上非常  
 に利益があると思ひます。

新	彰	教育主義		幼児身體的表現	幼児の精神的表現
		知的に	行動に對する訓練		
自然主義にして自發活動を待つ	早教育をなし主として物の名及作用を會得せしむ (質問に應じ)	幼児の本性に逆らはず至つて放任なり自己活動盛なる時期を充分に味はしむ	幼兒身體小 筋肉緊張太 活動盛なり 體質中等 頭や、大	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し
靜止的の行動なれば物品の取扱など嚴重に従つて行儀至つてよく躑す	身體大背高し 筋肉肥大 頭や、大 顔や、蒼白 體質中等 活動せず	身體小 筋肉緊張太 活動盛なり 體質中等 頭や、大	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し
言語不明瞭不活潑反應時間遅し 終日發言せず 手技及製作能力良好最も繪畫秀越なり 没頭性强し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し	多辯に近し機敏神經質にしてや、氣小 物の名意味を了解す手技出來榮良製作能力良好思考判斷力強し

客(兄)

私共は子供に知識に關したことは何も教へませぬが、訓練作法に關することは口癖の様に申してゐます、ですから玩具や繪本はもう澤山に保存してゐます、物に對する眞剣さと來たら大人がかゝつても出來ませぬほどです、一度いひましたことはよく了解して、私が骨董品道樂者です爲いろいろの貴重品を並べてありまして、小さい時から少しもいぢつたことがありませぬ、又赤坊の時から蓄音器をきかせてやりました、數十枚のレコードに對する興味を以て、板だけ見て「何に歌」とすぐ字はよめないが明言します教育も必要ですがその子の本性も然らしめるものですな、

客(弟)

私共は兄さんと是と違ひます、幼少な時から訓練も無論、必要ですが、之は大きくなれば自然わかることと思ひます三つ子時代に習つたことは、一生自分のものになつて仕舞ひます、子供が尋ねた時に、よい加減な答をして將來を考へなかつたら、後に如何なるでせう、又子供の小さい時の身體ほど大切なものは有りませぬ、私は教へた後はウンと

遊ばせ、出來るだけ亂暴に近くてもとがめません、障子を破らうと、少々大切なものはどうなつてかまひません、無論家外に於て充分な身體的訓練をさせます、ですから玩具や繪本などは形はありません呵々

保姆

とにかく、どこまでも極端なる反對説でゐらつしやいますことゝ、どちらにもとりえがあります、勿論、その子その子の能力が關係して將來の人物を造り出されるでせうが、教育の効果も亦必要なることは今更疑はないことです、少しも出來ないものを捨て、おくより教育した方がよいでせう出來る子を教育すれば、尙更よくなるでせう、しかしその方法によることすこどもの、あるものを阻害してまで教育することは有害であらうと思ひます、又幼少時代の身體に氣をつけ神經養護といふ意味からかれこれ干渉しないといふことも亦大切のことでありませう、どちら様も餘り極端に走られては居られないでせうか、何でも眞中かよといふわけではないが中庸といふことは、過がすくないと思ひます、兄さんは一方お下りになるかお上りになるかは標

準はきめられませぬが、何れの方よりも一足ずゝお進みに  
なつて、其中お二人のお顔がどちらからも見える様にせら  
れたら如何でせう。」之は淺學な無經驗な私人の考ですか  
ら御參考におき、下さいよ」しかし又子に對して親ほど了  
解が出来親切なものはないのですから、まづ過はなからで  
と思ひます、何卒各自御信じなさる處をお進みになつてよ  
ろしいでせう

客(弟)

明日は日曜ですから、瓦斯會社へ見學に連れゆかうと思ひ  
ます、兄さん御一緒に新ちやんをお連れになつては如何、  
客(兄)

ア、明日は八高(第八高等學校)の運動會があるから見に行  
きます彰さんつれてゆかれて如何

二人の言葉は、いつ妥協するであらう。

## ○保姆資格問題の協議及促進

### 動運

豫ての古い問題である保姆資格の高上、従つて待遇の改善  
について、九月二十六日帝國教育會で再び協議會が開かれ

た。大阪市から村田視學、京都市から山岡園長、神戸市から  
望月園長、名古屋市から足立堀田兩園長が、特に此のために  
上京され、東京市から田中視學、小川園長、が出席され、そ  
れに帝國教育會の野口理事と本會の倉橋主幹が加つて種々協  
議し、翌二十七日は一同で岡田文部大臣、松浦次官、栗屋普

通學務局長、池田第一課長等を歴訪して、熱心に此の問題の  
促進につき力をつくされんことを乞ふた。いつれも、充分此  
の問題の内容を理解されて居ることであるから、吾々の意の  
ある處を諒とせられた。その時大臣その他に開陳した要旨は  
大體次の通りである。

一、速かに幼稚園令を定められたきこと。それつにつきては  
文部省内に於て直ちに幼稚園令取調委員會を設立せられ公  
私専門家から、その委員を任命せられたきこと。

二、現行小學校令を改正して保姆の資格を早速左の如く改め  
られたきこと。

- 1 保母を正准兩種に分ち正保母は全然小學校正教員と同じく判任待遇となすこと。
- 2 正准保母の檢定試験は小學校正教員准教員の程度に準じ其の内容は全然異りたるものとし獨立せしむること。
- 3 現在の保母はその學歷及經驗を考查して適當なるものは正保母の資格を認定せられたきこと。
- 4 右の資格を得たもの、待遇はすべて小學校正教員と同等ならしむること、(待遇とは俸給・年功加俸・恩給その他の諸給與並に位階勳號を指す)
- 5 新に右の資格を得たる保母はすべてこれまでの勤續年數を恩給年數に計算せられたきこと。
- 6 小學校令施行規則第一百五條及其他に準じて保母の無試験檢定の制を設けられたきこと。
- 7 保母の名稱を適當に改められたきこと。

以上

尙ほ、此の協議の結果、幼稚園令について、まとまつた對案を研究して置く必要を認め、左の諸君を委員にお願ひして着々その調査を進めることとなつた。

東京府女子師範學校幼稚園主事	苦瓜 惠三郎君
東京市朝海幼稚園長	千葉 ヒデ君
東京府視學	横島 當三郎君
東京市視學	田中 三郎君
帝國教育會理事	野口 援太郎君
東京市仲之町幼稚園長	小川 圓次郎君
東京女高師幼稚園主事	倉橋 惣三君
同	梶引 富貴君
東京市視學長	藤井 利譽君
文部省普通學務局	清水 福市君
東京市番町幼稚園保母	檜山 京子君
文部督學官	森岡 常藏君

(イロハ順)

# 泰西名家幼稚園觀(一)

記 者 譯

—Jane Adams.

三十年以上前、ハル、ハウス(シカゴ市に於ける有名な隣保館)の創設以來常に一つか時には二つの幼稚園を我々は支持して來た。そして我々は、幼兒の教養と相互扶助とに依て、ハル、ハウスを取りまく移住民が之以上容易に、そして自然に協力し得る、教育方法は無いといふ事を發見するに至つた。

兩親達自身が、幼稚園のゲームや唱歌に喜で參加する事、それは屢々彼等をとりにまく、聞き知らぬ言語の中にあつて、理解し得た一番夙い形になつてゐる。そして彼等の兒等の自然な悦樂は、ほんとうに彼等の心からの和唱を喚起する。

米國化事業のあらゆる良結果の試の底には、必ずなくてはならぬ好意の、基礎を築いて行くのに、之以上の良い道はない。

—Mapy D. Brandtöpf.

教育は、其一時代に間影響し初めるに際してふれ太鼓を打ちならしはしない。

幼稚園は、その實際教育の改革を助ける爲に、一大奉仕を初めた際にも、ふれ太鼓をたゝかなかつた。しかし、事實に於て働は開始された。そして現今の初等教育の分野に於て、その最も前進的局面に於て、その働の効果には、多くの證據がある。「輝ける諸點」が即ちそれである。教育者のなすべき仕事といふのは、すべての兒童をその幼稚園の明るい光明の中に樂しませ得るまでに、其「輝ける諸點」の數と、形量と、を増大する事である。

$\frac{2}{4}$  ト調

かはいい唱歌

秋直井福曲  
義孝木青歌

$\frac{3}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{1}{4}$  |  $\frac{2}{4}$   $\frac{5}{4}$   $\frac{5}{4}$   $\frac{5}{4}$  |  $\frac{3}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{2}{4}$   $\frac{1}{4}$  |  $\frac{3}{4}$   $\frac{2}{4}$   $\frac{2}{4}$  0 |  $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{6}{4}$  |  $\frac{5}{4}$   $\frac{5}{4}$   $\frac{1}{4}$   $\frac{2}{4}$   
 サキモノカケカラ アタマヲシテ ナゲタ アケクフ

$\frac{3}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{2}{4}$   $\frac{1}{4}$  |  $\frac{2}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{1}{4}$  0 |  $\frac{5}{4}$  | 5 5 0 1 | 1 1 0 | 2 2 0  
 オイケノヒゴヒヒ トツフタツ ミツツ

$\frac{3}{4}$   $\frac{2}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{4}{4}$  |  $\frac{5}{4}$   $\frac{5}{4}$   $\frac{3}{4}$   $\frac{1}{4}$  |  $\frac{3}{4}$   $\frac{3}{4}$  0  $\frac{2}{4}$   $\frac{2}{4}$  0 |  $\frac{1}{4}$   $\frac{1}{4}$  0 0  
 ミツツノ オケチテ バク バク バク

お池の緋鯉  
遊動  
戯作

お池の緋鯉

振付 土川五郎

2 おほきなお口に追ひかけられて

なみのまに〜燒麩が逃ける

ゆらり ゆらり ゆらり

ゆらめく あとから

バク バク バク

口動 作

うきものなかから…左足を引き膝をつきて躊躇し兩手を頭上に丸くかぶり頭を前に下ぐ

あたまを…兩脇を曲け左右に張り掌を下に向けて兩指先相對する如くして上胸部におく

だして…直立すると共に兩手を左右に開く(掌下に)

なけ た…右足を引き左掌を上にして體前に伸ばし右掌にてそれを打つ

ふをく ふ…左足を右足より更に後方に引くと共に右手前に左掌を以てそれを打つ

おいけ の…膝を少しく屈し兩手をやゝ左前方に柔かく出しつゝ左足を大きく一歩摺り出す

(此の時體を伸ばす)

ひご ひ…右足を摺り出し兩手をやゝ右前方に出す

一 つ…左足を右足に揃へ顔の高さにて斜左上にて柔かく招く如くし

二 つ…體前にて少し高くして同じく招くす

三 つ…斜右上にて同じくす

三 つ…左手を體前に出し掌を上にし右手を右下方より後ろ上に

おくちで…更に前方に運び左掌の上に右掌を重ね斜左前に左足を一步踏み出して重ねたる

兩手を其方向に少しく伸ばす

ば く…斜右前に右足を一步踏み出して同じくす

ば く…體前眞直に左足を踏み出すと共に大きく兩手を突き出す

大 き な…四歩後退す

お 口 に…兩手にて(掌を向き合せる如くして)丸を左下方に作り

おひかけられて…左下方を振り向きたるまゝにて右方へ駈足八歩

波 の…左足前に兩手をやゝ斜左上方に伸ばし僅かに上下に微動せしむ(顔は上方を向け

ふわくと浮きたる如くす)

ま に く…同じく右足前に兩手を上下にて微動せしむ

焼 ふ が…「波の」と同じ

ゆ ら り…左足前に兩手を大きく左方へ流す

ゆ ら り…左より少し上へ山形に體前より右下方に流す

ゆ ら り…左下方に流す

あ と か ら…右掌を左掌に合す

ばくくばく…前の「ばくばくばく」に同じ



# 南支那地方視察之一節

## 大阪市西區幼稚園視察團

去る五月十二日二週間の豫定を以て、私共大阪市西區幼稚園の保姆五名は、市からの出張命令を受けて、上海を中心として南京、蘇州、杭州に於ける幼兒教育の一般を視て歸へりました。何しろ同行者が女計りの五名と言ふのですから、隨分出發前には危なれましたが、幸にして前後十九日間、一行中唯一人の病者も出さず、至る處大歓迎を受けて、何の蹉跌も起らず元氣に神戸埠頭へ着いた時には、流石に重い荷を卸した感じがいたしました。

### ▼計 劃

私共西區では豫てから南支那の視察に出かけ度いと言ふのが懸案になつて居りました。昨年の秋既に出發の豫定になつて居たので御座いますが、計らずも未曾有の關東大震災があつたので遠慮いたしました。漸く本年度さし入りの五月に實行したので御座います。で西區に十園あります内本年度は先づ其半數だけ參る事になり、残り五園は明年度即大正十四年度に實施される事になつて居ります。

### ▼組 織

五名の保姆は、先づ組織的の自治團を造りました。一行中の團長は江戸堀幼稚園の膳氏で、外交係は同氏と外に高臺幼稚園の上々手氏、會計係は鞆幼稚園の橋井氏と、日吉幼稚園の若井氏とで、記録係は松島幼稚園に居る不肖私(大道)といふ事になりました。

#### ▼出發前の用意

出發前には、地理、歴史、風俗習慣、其他旅館から通貨、案内者等總ての注意と指導とを本市視學の武本謙吉氏に仰ぎ、萬遺漏無き迄に仕た管で御座いました。そして市長から、上海總領事矢田氏と、外に大阪貿易調査所へ宛てた二通の紹介状を戴き、旅館は各方面の紹介で上海虹口の日本旅館、萬歲館に前以て依録状を出しておき、尙郵船會社の方へは、知名の人の紹介をえて是れも都合よく頼んでありました。ですから出發の第一歩からそれはく優待されて、氣持克く此の行を了へる事が出来ました。是れ全く市當局並に各位の御後援の賜物と深く感謝する次第で御座います。

さて幼稚園脚行が目的では御座いますが、何分外國幼稚園の事とて、相當の手續や紹介が必要なのと、其上言語が皆目分らぬので、嘔の旅行も同様、幸にして通譯の方があつても、斯道の人でないために、尋ねたことも、言ひたいことも思ふ様に通じず、幾多の不便を感じましたのは、全く己が罪であります。故に左に報じます事は見て來た事に過ぎません。百聞は一見に如かず」まあ御推斷下さいませ。

#### ▼視た幼稚園

上海では英、佛、日、の三種を視た計りでアメリカの幼稚園を見る事の出来なかつたのは此上も無い残念でした。何分前述の通り手數が入ると、通譯の方の都合それに領事館でも幼稚園の所在地さへも明かでないため、(それ程幼児教育は等閑視されて居ます)此の方面の紹介も思ふ様に參られなかつたからです。

尤も支那人經營のものなどは上海には無いので、小學校は見ましたが、是れも日本人の經營する支那兒童の小學校なものでした。

南京では金陵大學の附屬幼稚園と、女子師範の附屬幼稚園とです。東南大學の附屬幼稚園に參りましたが、生憎其日は清潔デーなので何うしても見せて戴けませんでした。其他ば小學校を一寸視た位でした。蘇洲や杭州は時間が無いので此

方面の視察は出来ませんでした。

(便宜上紀行文を其儘、日誌體に報告いたします)

五月十五日・木曜日 晴

今日は外國幼稚園を參觀する日取になつて居るので、自動車を言ひつけて待つて居ると貿易調査所の大森氏が入らして下だすつた。領事館かららの添書を持つて、佛蘭西租界にある佛蘭西幼稚園を見に行つた。

#### 佛蘭西幼稚園

同園は小學校に敷設されて居るのである。案内された應接室に待つて居ると大分程經て前の方が來て幼稚園に案内せられた。

室は三つ保姆は三人それに助手一人、幼兒は全部で五十餘名年少組は拾七名、内男兒十一名女兒六名。

私達の顔を見ると主任の先生らしい此の組の保姆は愛想よく挨拶してピアノに倚られた。マーチを弾かれると子供は馬蹄形に並べた小さい椅子に行儀よく就いた。すると先生は子供の中心に、同じ様な小さい椅子をおいて腰をかけられると出席簿を読み上げられた。子供は小さい可愛い、聲で返事をする。中の悪戯者らしい男兒が教卓の傍に立たされた。

口唱で歌詞を口授せられると、一同はオーム返しにそれに慣つた。言ひ難い處は幾度か「エゲーン」をやつて練習する。皆腕組なんぞして、自由な態度を取りつゝ、器用に眞似て居る。

次に椅子を各自持つて片付けると、支那人のアマが來て胡座を敷いた。一同は是れに脚を投げ出して座る。すると先生は、各目に組板だの積木だの飯事遊びの玩具などを適宜に與へて廻はられる。何れも一齊に遊び出した。

先刻から教卓によつて斷髮の美しい助手らしい保姆さんが、各自の遊嬉の模様を記録して居られる。

先生はにこやかに私達の前に來て説明せられた。話の要は次の如きものであつた。

佛國人經營の幼稚園だが、各國の子供が居るので、一番困るのは第一に言葉を教へてかゝらねばならぬことである故に此の組では主として英語を教へて、お互の意志が通じる様に骨を折つて居ることである。其他は各自の好むまゝに遊戯をさせて居る。そして此の年少組で相當話せる様になつたら次の組に入れる。次の組で英語が達者になると、次は佛語を授けるのである。兎に角三ヶ年間居る間に、英佛語の大體が分る様にするのであると。

是れだけを話してから壁に提けてある畫の帶模様になつたのや、切紙で白鳥を切抜いたのを同様帶模様貼つたものを示して「總て實際生活に適合した様にして居る」と言つて居られた。それから材料戸棚からラヒヤといふ蘆の葉を乾して着色した様なものを示して、これで色々の組物や籠の様なものをこしらへるのだと教へられた。

【年長組】年長組に入るとボールドに鳥籠に鳥が一羽止まつた畫を左上に書いて、佛語でこれの詩らしいものが數行書いてあつた。幼児は二十名足らず。何れも、髪の毛の黒い肉付の好い小柄の先生を中心に、机や椅子を小學校流に並べて、そして先生の指すボールドの鞭の動くまゝに讀んで居る。丁度私達が英語の教授を受けた昔と一寸も變らない様な感じがした。

其後で先生がペーピオルガンによつて何かの曲を弾き出されると子供等は齊に唱ひだした。それは今教つたボールドの詩をうたつて居るのである。かうして佛蘭西語のお稽古は行はれるのである。

【中間組】次の部屋は年少組の中間に位した組で、何の裝飾も無細長い陰氣な部屋に先生は英語を教へて居た。椅子の並べ方も年長組同様で何の變化も無く作業が作業だからではあらうが、是れが幼稚園かと思はれる位であつた。茲でも隣同様、板書を教鞭で指しつゝ口授して居た様子は全く小學教育の様に感ぜられて、何だかあつてなかつた。

【遊園】遊園は一列に並んだ保育室の前になつて居たが、別に大した備へつけの遊具も見えず、傍に西洋草花が麗に咲いた小さい花壇が一つある許りであつた。併し二百名以上の幼児を持つ我々大阪の幼稚園には、是れだけの空地す

ら持つて居ない園のあるのに比べては、五十餘名の子供に、是れ丈の廣さがあれば結構だと思つた。厚く謝して出ると、小學校の女生徒が三々五々軽い服裝をして腕を組んで歩いて居るのを見て、何とも言へぬ清らかな自由な感じがして後振り返へられた。

【英國幼稚園】英租界にある英人經營の幼稚園に行つた。門を入ると大きなボインター種の番犬が寐て居て、私達が入るとソツと立つて大人らしく後廻りしてついて來た。直ぐに保育室に案内された。室の大きさは約三十坪位で、椅子や机が半分以上其部屋を占領して居る。

丁度今保育最中で、若い先生が三十五六名の子供を相手に何か書いて居られた。茲でも各國の子供が居るさうで日本の幼兒も三四名見られた。机や椅子の並べ方は、前の幼稚園と同様で我國の小學校風である。教卓の前に小さい椅子を置いて其上に立つて居る女兒があつた。私達は前の例に慣つて又體罪でも受けて居るのかと思つたら、さうで無くて寫生のモデルになつて居るのであつた。注意して見るとクレオンを畫用紙になすつて頻りに書いて居る。中に印度人の子供と一人の子供とは一向興味無ささうに投げやつて居るのが目についた。

先生はわざ／＼日本の子供の頭を撫で、私達と其子供とを見排へてニツコリ笑つて居られた。中の三四人は後の床の上で脚投げ出して積木を遊んで居たが、意地のわるい日本のリツツルガールは、妙な顔つきをしたり、手眞似身振りをして積木を掠奪しやうとした。見て居て何だか嫌やな氣持ちかした。

先生は椅子に立つて居る女兒を席に返へすと、畫用紙をあつめてそれを戸棚に入ると、皆に椅子を持たせてピアノの傍に寄られた。唱歌なのである。一同はピアノに合せて唱つた。中には私達計り見て居て一向うたはないものもある。

主任の年老いた上品な先生が一々説明して居られたが、私達にはよく通じなかつた。お晝前なので別に遊園も見ず平凡な感じをしたまゝで宿に歸へつた。

### ▼水月學堂附屬幾稱園

晝食を終へると日本民團立小學校の井口氏が、水月學堂と、その附屬幼稚園を案内すると言つて來て下だすつた。

水月學堂及其附屬幼稚園は、内外紡績會社の經營で主として社員の子弟を收容して居る純日本の學舎なのである。規模の小さい割合に完備して居る。不思議な事には茲の校園長は阪口才之助氏と言つて、元京都師範の附屬小學校に御出でになつたので、自然私共の存じ上げて居る方だつた。顔を見ると、『矢張り私の知つて居る人だつたね』と言つて、一行が今度當地方視察に來る旨の記事が新聞に載つて居たので知つたと仰つて快く應接室に案内された。午後の事とて園児は居なかつたが、保姆の中澤さんと仰しやるのかいらして、始終何がと御親切に預つた。

此の會社の社長は河村といふ方で前社長の意志を續いて至極堅實な方針の下に事業をして居られるさうで、従つて社員の子弟を教育するに先づ小學部及幼稚園を建設し猶將來は、中學部をも建てられる事になつて居ると言ふお話であつた。それに感心なのは支那職工の子弟を教育するに、特に支那人の教師を弊して四百人以上の兒童の教養に盡くして居られる事である。

阪口校長の案内で、學堂の校舎を見まはつた。百二十名を收容する學校としては實に備つて居る。理科手工室、裁縫室音楽室等の特別教室迄ある。それに廣い遊園と植込泉池の結構を充分で無いが周圍の環境は實に立派なものであると思つた。

一週日の後此の幼稚園に母の會なるものゝ發會式が開かれた。席上私共も案内されて出席したが、幹部の方の熱心には感心した。子供の爲めに雨の日も厭はず、朝早うから集まつた母姉の方は可なり多かつた。(下略)

五月拾三日 火曜日 曇

前略 上海紡績會社附屬幼稚園

南支那地方視察之一節

自働車は上海紡績會社附屬幼稚園の前で止まつた。茲には以前日本女子大學の附屬幼稚園に奉職して居られた松田権子さんと仰しやる方が居られるので、團長を通じて同姉にお目にかゝつたが、實に人格の高い立派な先生で、見るからに私共の缺點が見透かされる様で恥かしかつた。

園庭の廣い事、それに砂地の氣持よく美しい事、砂場の砂が丁度濱砂の様に細く奇麗なこと、試みに指先につまんで見たが、何一つ汚れが目立なかつたそれに羨ましいのは花園が廣くてよく世話が行届き美しい草花が咲き誇つて居る事であつた。

園児は僅かに十五六名、使丁は支那人のボーイで先生がお一人、實に私共から見ると理想境の様に思はれた。

散々賞めておくと、後で此の方から『幼兒の少ないのを以て理想と仰しやつたが、當地の様に相當日本人が居るにも拘はらず、其子弟を幼稚園に入れやうとする人の少ないのは、全く幼兒教育を認められて居ない爲めである、只少ない園児と、廣い園庭を見て理想境と仰しやらないで、狭い土地に足も立たない程入園者の多い御地の、教育思想の進んだ處を當地の人々に紹介して宣傳して欲しい』と言つた風の事を承はつて一同成程と感心した。

上海には以上二つの私立幼稚園の外に、日本居留民團立の附屬幼稚園があるが、常に松田先生はそれ等の中心になつて一同の修養に心懸けて居られる。

出立數日前の二十四日の土曜日に此の方の依頼もだし難く十名餘の保姆さん方と一緒に遊戲の稽古をしたのは實に嗚呼がましい極みであつた。

今日は生憎保育を見せて裁く時間の餘猶がないので、只是れ丈でお暇しなければならなかつた。松田様には滞在中毎日御世話になつて全く御禮の申上様もない位、一同感謝して居ることである。

引止められたが待たしてある自動車で上海居留民團立小學校の門をくゞつた。校長長谷川氏は極めて敏腕の聲高き理想家で、御赴任後日未だ淺いにも不拘校舎内の設備や計劃が立派に出来て居た。

高等女學校の方に敷設された同校幼稚園に案内せられる二人の保姆さんは四十五名の幼兒を熱心に保育して居られた。女學校に續いて居る丈に園舎や保育室に限定されて居けれども、幼兒數に比して矢張り茲も遊園が思ふ存分なのは羨やましい。入園志望者は可なりあるらしく百四十五名は毎年あるさうだが、何分移民地なので、年に二百人内外の出入りがあると云ふ事であつた。保育料はと尋ねたら、三弗であると仰しつた。(下略)

五月十七日 土曜日 曇

南京の一夜は快く明けた。九時に領事館に伺ふ約束になつて届たが、それ迄に日本人の小學校を一つ參觀 やうと云ふので、八時過ぎにお出で下すつた五味氏の先導で二日目の馬車を藉つた(中略)

#### ▼金陵大學附屬幼稚園

丁度好い時間に領事館についた、領事は晴々とした面持ちをして直ぐ夫人と御一緒に、お子様方の行つていらつしやる金陵大學の附屬幼稚園へ案内して戴いた。

畑續きの一劃に見るからに理想的な構へがある。領事館の裏から行けばつい其の下の方に見える。一同は裏木戸を通つて畑の中を行つた。十坪程の處に山羊が長閑な顔をして遊んで居る。此の幼稚園で飼育して居るのでお乳も絞るのださうな。よく肥えたたぶくした乳房を下けて居る。門を入ると直ぐ玄關で、板敷になつた三坪程の其處では既にプロンドの可愛い眼をした男の子が二人、大きな荒箱を家にして犬ころの様に其中に入つて積木で遊んで居た。

主任の先生は一見日本人に變らぬ顔立ちの方だか純支那婦人で、それは感じの好い美しい方である。並の好い齒く可愛らしいゑくほを見せて愛想よく私達を迎へて下だした。



保育室は二十坪餘のものが一つ他は手洗場や炊事場の様なものが保育室と隣つて向側にあるらしい。

室の内には二三ヶ所に机を並べて其の上には赤や黄色のチュリップが花瓶にさして置いてあつた。二三人宛机をかこんだ幼児は毛筆と繪の具それに繪の皿を持つて寫生をして居る。思はぬお客様に吃驚して、皆一齊に顔を上げて筆を止めた先生は何か仰しやつて其小さい机と椅子を片脇によせるとオルガンによつて何かのうたを弾き初められた。一同は先生を中心にオルガンの傍に脚投げ出して集まると唱ひ出した。次に子供の名を呼ばれると、呼ばれた女児は臆面もせず一人宛出て行つて律動遊戲の様な事をした。

【お茶】 おうたや遊戲が暫く續くと、お茶の用意がせられた。牛乳とビスケットが出るのである。美しいコーヒー茶碗に牛乳とビスケットを盛つてアマが運ぶと、小さい御主人は一樣に咽喉をならして喜んだ。支那の子供も、日本の子供も英國の子も印度の子もと言つた風に、支那人の幼稚園でも各國の子供が居るが、お菓子に對するよろこひは一つである十七八の支那人の助手が一人ついて居た。主席の先生はアメリカに三年餘り留學して居られた學識の高い方で、吾々に對する態度も、子供の取扱方も本黨に圓熟していゝ感じを與へられた。支那婦人の中にもかうした勝れた人が近年は澤山あつて、寧ろ日本婦人の方が餘程後れて居ないかと思はれる様な點が澤山あつた。矢張茲でも語學が先きに立つので、食事の前に言葉や數を教へられた。

何よりも園舎が清潔で、落ついて居り、周圍は理想的で、しかも茲に遊ぶ子供の家庭が皆上流の子供計りなので、私共の幼稚園などは比較にならぬ。幼児數は十五六名、年齢は滿二才から入園させられるさうである。保育料は三弗、他にお茶料とし一弗を受けて居るとのお話であつた。(中略)

東南大學の附屬幼稚園を見るべく領事館の添書をそへて刺を通じたが、『今日は生憎大掃除で參觀は出来ぬ』と断られた見ると門扉に『本日大掃除につき參觀謝絶』の旨が書いて貼つてある。『設備だけでも好いから』と言つて見たが駄目だつた

そこで女子師範に行く事にした。

#### ▼女子師範學校附屬幼稚園

制服の師範生徒が三々五々門を出たり、入つたりして居る。其服装の軽やかで清楚な事、それに見た處一寸も普通の支那人の着川するものゝ様にくつついて居ないで、ゆるやかで、本當に氣持好い。髪の上げ方も女學生流、西洋流で前髪は垂れて居るけれども油氣なしの束髪であるのも氣持ちよい。

主任の先生が病氣缺動なので、若い先生が教生を澤山指揮して歸宅前の會集らしかつた。廣い遊戯室に椅子を圓形にしてお唱歌をうたつて居た。當番で無い教生が周圍に立つてそれをみて居る。先生は一々立つて行つては注意を與へそしてピアノに倚つてマーチを弾かれるマーチは私達の耳にあるもの計りであつた。進行曲本を見ると、支那のうたを附しただけの相違で何等變らない。中々上手な手つきである。取扱方や、遊戯の指導振りが、日本流なので何だか親しみ深く感じた。聞くと主任の方は東京女師範の出身であると言ふ事であつた、成程と思つた。

壁に貼つた畫き方も、其掛べ方も別に興を引かなかつた。兎に角、支那人の子弟が百四五十名、かうして教育されて居ると思ふと、心強く感ぜられた。(下略、以上)

#### 附記

視察の個所は前述の如く極めて一小部分に過ぎませんが、まだ視ぬ世界を見て、成程と感心もし、力強くも思つれ事は有難い土産でありました、視て來た丈の事を極めて無調法な書方で報告しなければならぬ罪は全く私にあるので御座います。何うぞ御推讀下さいませ

# 編輯だより

十月。岡山には保育者大会が開かれ、東京には、保姆資格促進運動が開始されました。長い夏休みに鍛えた腕が鳴るはずで。

くり拾ひに、芋掘りに、コスモスの秋の、郊外へ、子等の足が踊ります。うちらかな空をあふいで「遠足!!」小さい群へ、無電のように此の叫びは、傳はります。「今日直ぐに!!」成人の、わだかまりを、子等と季節は待ちませぬ。

夜なが。虫の音が降るような、露が軒端に滴る頃、木も草も屋根も月に光る頃、さわやかな氣、なつかしい灯。其處にしづかな、一人の世界が生れます。

諸方の會員皆様から、おひく原稿をお送り下さいましてありがとうございます。やつと、お蔭様でお互の雑誌が、自分達の方で、たうございます。どうぞ、引續き、どしどし御発表、御感想、實話御意見等、御送附下さつて編輯子に、ぐるぐまひをさせて下さいまし。

御注意	料告廣	定價		冊數	郵稅
		表	裏		
(外國行郵税は) 部十二錢の割にて御拂込下さい (本誌購讀御希望の方は定價表により振替貯金で御送金下さい)(東京四六書堂寄書教文書院宛) (前金切れの節は帶紙に「前金切」と致します。 (郵券送金の節は一刺増で一錢切手に願ひます。 (本誌の一切は教文書院宛御照會下さい。	普通面一頁	金四拾五圓	同	一冊	金貳錢
	表紙裏付	金七拾圓	同	六冊(前金)	金貳圓拾錢
	表紙前付	金七拾圓	同	十二冊(前金)	金貳圓拾錢
	表紙裏付	金七拾圓	同	一冊	金參拾五錢

大十三年十月十一日納本  
 大十三年十月十五日發行  
**第二十四卷第六號**

無 斷  
 禁 載  
 轉 載

編輯者 倉 橋 惣 三  
 東京女子高等師範學校内日本幼稚園協會  
 東京市下谷區上根岸八十八番地  
 發行者 越 元 新 吉  
 東京市小石川區戸崎町七十三番地  
 印刷者 沖 田 瀧 次 郎  
 印刷所 教文書院印刷部

東京上野公園寛永寺坂下(上根岸八十八)

發行所 教 文 書 院  
 電話下谷三〇四七番・一九五一番  
 振替東京四六一一一番

日本體育會體操學校講師  
大阪府金蘭女學校講師  
兒童新舞蹈研究會主幹

久保富次郎先生著

菊判總クロース製箱入美本  
舶來上質アートベーパー  
圖解寫真六十餘圖挿入

# 各大家 合作 兒童 新遊戲

正價金二圓十五錢  
書留料十錢

## 目次

みづ汽車	夏月の鶯	お月さん	とほせんぼ	虹の橋	お山の將	月夜の鐘	鈴蘭	お星様	子守唄
雜誌明日の教育掲載	三澤隆朝作曲	光原十郎作曲	北原白長作曲	弘原龍太郎作曲	野口景雨作曲	西條長十郎作曲	本居隆朝作曲	西條長十郎作曲	黒澤隆朝作曲

我國古來の舞蹈と新來のダンスの長所を取入れ兒童に適應する様に創案した表情遊戲で學校教材として最も理想的のもの、殊に上品に優雅に謠の示す通り表現し無意味な手振、餘計な表情を入れず、曲の表現に對しては最も注意せる遊戲として無比の遊戲書であります。

發兌

東京上野公園寛永寺坂下 上根岸八八  
振替東京四六一一番電下三〇四七番

教文書院

東京女子高等師範學校  
保姆兼教諭 坂内みつ子先生著

# 子供の遊ばせ方

四六判クロース製・ポイント活字・正價金一圓八十錢・書留送料十三錢

## 訂正第八版出來

子供を遊ばせ  
はとこ

中々難しいが又愉快なものである。  
 幼児教育の理論と實際に精通した著者の、子供に對する遊ばせ方の研究書であります。發行以來半歳後の今日賣行きの持續するのは内容の良い結果と信じます。今回改版訂正の上第八版を發行致しました、學校でも家庭でも備ふべき良書であります。

### 次目

- 子供を遊ばせるといふ意義
- 子供を遊ばせるに大切な條件
- 子供の好む遊びの種類
- 子供の好む玩具の種類
- 玩具選定の標準
- 子供を遊ばせる方法
- 室内遊び
- 團體遊び
- お話し
- 個人的遊び
- 室外遊び

以下  
數十項

發行所

東京上野公園  
寛永寺坂下

教文書院

電話下谷三〇四七・一九五一番  
振替東京四六一一一番

第二十四卷第六號（每月一回十五日發行）

大正十三年十月十五日印刷  
大正十三年十月十五日發行

定價金三十五錢

院書文教